

中学校第1学年 音楽科学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金)2校時

指導者 教育センター所員 釋 美貴子

1 題材

音楽の特徴を背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて聴き、よさや美しさを味わおう

2 教材

「春」「冬」(「和声と創意の試み」第1集「四季」から) ヴィヴァルディ作曲

3 題材設定の趣旨

学習指導要領では、音楽科の目標として「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」⁽¹⁾と示されている。平成20年の改訂で、「音楽文化についての理解を深める」ことが教科目標の中に追加された。国際化が進展する今日、我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実するとともに、文化・歴史や他の芸術との関連性や音楽の多様性の理解を図り、諸外国の音楽文化を尊重する態度の育成が求められている。

本題材は、音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する能力を育てることをねらいとしている。音楽は、その背景となる文化・歴史や他の芸術から直接間接に影響を受けており、それが音楽の特徴となって表れている。音楽の背景に目を向けることは、音楽を形づくっている要素や構造、曲想を捉えるために有効だと考えられる。音楽を背景と関連させながら、音楽の特徴を捉え、それを言葉で交流する活動を通して、音楽のよさや美しさを味わって聴くことにつなげたい。学習指導要領の、「B鑑賞」(1)鑑賞の事項ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」、鑑賞の事項イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること」(第1学年)を取り扱い、〔共通事項〕のうち音色、旋律、テクスチャ、形式との関連を図りながら指導を進める。

「春」は、急―緩―急の3楽章構成による独奏協奏曲である。ヴィヴァルディの独奏協奏曲の最も大きな特徴は、独奏と合奏が交互に出てくるリトルネッロ形式が急速楽章で用いられていること、ソネットの内容と自らが感じ取った印象を重ねることで情景が想像しやすいことである。今回は「春」の音色、旋律、テクスチャ、形式など音楽を構成している要素を知覚し、感受を深めながら、自分の感じたことや解釈などを紹介文で表現する学習を進める。また、楽曲の背景となるバロックの音楽は、ドラマティックで大胆な表現が特徴的である。17世紀のバロック芸術では、絵画の分野でも躍動感にあふれ、明暗のはっきりしたものが描かれている。ドラマティックで大胆になったとも言える表現手法は、音楽にも通じるものだと言える。当時の絵画や建築等の他の芸術にも触れ、それらと音楽の関わり合いを意識して楽曲の一部分や全体を聴かせ、その曲の特徴を、〔共通事項〕を根拠に解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明する。そして「春」で学んだ聴き方を生かしながら、「四季」の中でも調性や曲想が異なる「冬」を鑑賞し、2曲を比較して聴くことで、さらに楽曲の特徴を捉え、より深く音楽のよさや美しさを味わうことができると考える。

国立教育政策研究所が平成20年度に中学校第3学年生徒3,000人を対象に実施した「特定の課題に関する調査(音楽)」では、次のような結果が示されている。音楽を聴いて紹介文を記述する問題で、気持ちや想像したことを記述できた生徒が76.3%だったのに対し、音楽の要素を2つ挙げ、音楽の移り変わりに触れて具体的に記述するなどの条件を満たした生徒は33.8%であった。このことから、音楽を特徴付けている要素や楽曲の構成を聴き取り、それらと関わらせて、感じ取った曲想を言葉で表すことに課題があると言える。

本学級の生徒は、事前意識調査より次のような結果が表れている。「音楽を聴いて感じたことや思ったことを書くこと」について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は約8割だったのに対し、「音楽を聴いて感じたことや思ったことを友だちに話すこと」について「好き」「どちらかとい

えば好き」と答えた生徒は約6割であった。このことから、感じ取ったことを書くことよりも、言葉で伝え合うことにやや抵抗が見られることが分かる。

以上の調査結果を踏まえ、指導に当たっては、指導する〔共通事項〕やその示し方を工夫するとともに、生徒の交流活動に配慮したい。想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導の充実を図る。また、交流活動の場面では、話し合う柱を焦点化し、学習用PCを使用して音楽を聴きながら話し合うことで、音楽を主体的に聴き、よさや美しさを味わって聴く生徒の育成につながるものとする。

4 題材の目標

「春」「冬」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の背景となるバロックの音楽や他の芸術との関わりを感じ取って聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。

5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。
②「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	②「春」や「冬」の音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、解釈したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わって聴いている。

6 本題材で位置付ける〔共通事項〕

〔共通事項〕		本題材における具体の姿
ア	音色	弦楽合奏とチェンバロの音色、独奏ヴァイオリンの音色
	旋律	「春」 第1楽章…ホ長調、明朗で躍動的な旋律、鳥の鳴き声や雷鳴を表現している旋律、装飾音符がついた華やかな旋律 第2楽章…嬰ハ短調、眠る山羊飼い・木の葉のささやき・犬が吠える声の描写 第3楽章…ホ長調、明るく華やかな田園的な踊りの描写 「冬」第1楽章 …短調、同音の連続で緊張感がある旋律、吹きつける風の描写
	テクスチュア	独奏・重奏と合奏、通奏低音と弦楽合奏
	形式	急―緩―急の3楽章形式、急速楽章のリトルネッロ形式
イ	Allegro	急速楽章の速さ、緩徐楽章Largoとの対比

7 題材の指導と評価の計画（全3時間）

時	◇ねらい ○学習内容 ・学習活動	◆評価規準	評価方法
第1時	◇弦楽合奏の音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る学習に主体的に取り組む。		
	○「春」の音楽を形づくっている要素のうち、音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。	◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と	・観察 ・ワークシートの記述

<p>第1時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「春」の第1楽章を聴き、感じ取ったこと等を自由に話し合い、発表する。(生徒の発言の中から、音色、旋律、テクスチュアに関するものを取り上げて、板書して整理する。) ・Aの部分聴き、音色、旋律、テクスチュアの意味などを教師の説明を聞いて理解するとともに、「どのような感じの音楽か」「それは音楽のどんなところからか」をワークシートに書き、発表し合う。 ・B、DをAと比較しながら聴き、Aとの違いを意識してワークシートに書いて発表し合う。 <p>○ソネットの内容、リトルネッコ形式を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の各部分にソネットが付けられていることを知り、情景を想像する。 ・Aの旋律と同じような旋律が繰り返し演奏されることを意識しながら「春」の第1楽章を通して聴く。 ・リトルネッコ形式を知る。 <p>※ A～Eはソネットの各部分を表す。</p> <p>A春がやって来た。B小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。C泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。D黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。E風がやむと、小鳥はまた歌い始める。</p>	<p>曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関-①】</p> <p>◆「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けている。 【鑑-①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述
<p>第2時(本時)</p>	<p>◇曲の背景と音楽の関わりに関心をもち、曲の特徴を捉える学習に主体的に取り組む。</p> <p>○第1楽章との比較を手掛かりにして第2楽章、第3楽章を聴き、それぞれの音楽の特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2楽章を聴き、長調と短調の違い、独奏の旋律が全体にわたることなど、気付いたことを話し合う。 ・第3楽章を聴き、第1楽章と同じリトルネッコ形式でできていることなど、気付いたことを話し合う。 <p>○バロックの時代背景や文化(建築様式、絵画等)・歴史を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを手掛かりにしてバロックの特徴をまとめる。 <p>○曲の背景と曲想がどのように関わっているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の背景と曲想の関わりをグループで話し合う。 	<p>◆「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関-②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシートの記述
<p>第3時</p>	<p>◇「冬」を聴き、「春」の学習を振り返りながら音楽の特徴を捉え、背景と関連付けながら紹介文を書き、よさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○「春」との比較を手掛かりにして「冬」を聴き、音楽の特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名を伏せて「冬」を聴き、どんな情景を表しているか想像する。 ・「春」と似ているところと違うところを自由に出し合う。 ・グループで似ている理由、違う理由を話し合う。 <p>○イタリアの気候や四季について知る。</p>		

第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・音色，旋律からイタリアの四季を想像させる。 ○学習を振り返りながら，ヴィヴァルディになったつもりで紹介文を書く。 ・「春」と「冬」の気に入ったところとその理由を入れる。 ・音色，旋律，テクスチュア，形式の言葉を用いる。 ・曲の背景との関連を考えながら，曲の紹介をする。 ○紹介文を基に意見交換をする。 ○「春」の第1楽章を鑑賞する。 	<p>◆「春」や「冬」の音楽の特徴を，その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，解釈したり価値を考えたりし，よさや美しさを味わって聴いている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑-②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述
-----	---	--	--

8 本時の学習指導（2／3）

(1) 指導目標

「春」の音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち，解釈したり価値を考えたりし，よさや美しさを味わって鑑賞できるようにする。

(2) 指導の視点

- ・曲の背景と音楽との関わりを考えさせる際に，「華やかさ」「対比」の2つのキーワードを提示したり，PPT資料を用いたりして，焦点化して考えさせる。
- ・交流活動を行う場面において，学習用PCを用いて音楽を聴きながら話し合わせ，曲のよさや美しさを味わわせる。

(3) 指導過程

	学習活動	教師の指導・支援	評価
導 入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「春」の第1楽章を聴かせ，前時の学習を想起させる。 ・独奏と合奏が交互に現れること，リトルネッロ形式を確認する。 ・第2楽章，第3楽章があることを伝え，本時は全曲を聴き，曲が作られた背景と関わらせて音楽を捉えることを伝える。 	
曲の背景と関わらせて「春」の特徴をつかもう			
展 開	3 第1楽章との比較を手掛かりにして第2楽章，第3楽章を聴き，それぞれの音楽の特徴を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・音色，旋律，テクスチュアに着目して第1楽章と比較しながら聴かせる。 ・ワークシートに自分が捉えたそれぞれの音楽の特徴を記入するように指示する。 ・書けていない生徒には，掲示資料「音楽を表すいろいろな言葉」「音楽の感じシート」から自分が感じたことに近い言葉を探して書くように伝える。 ・ペアで意見を交流させる。 ・ワークシートに書いたことを発表さ 	

展 開	4 「春」の時代背景を知る。	<ul style="list-style-type: none"> せ、板書し、整理する。 ・第2楽章は、長調と短調の違い、独奏の旋律が全体にわたることなどに気付かせる。 ・第2楽章のテクスチュアを電子黒板で提示した楽譜と旋律で説明する。 ・第3楽章は第1楽章と同じリトルネッロ形式であることに気付かせる。 ・第2楽章、第3楽章のソネットを伝える。 ・教科書や提示資料でバロックの特徴を説明する。 ・2つのキーワード「華やかさ」「対比」を示す。 	<p>◆「春」の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関-②】</p> <p><観察、ワークシートの記述></p> <p>・おおむね満足(B)と判断する目安 音楽の背景と音楽的な特徴との関わりについて、自ら発言したり他者の発言を聴いて反応したりし、ワークシートに内容を記述している。</p> <p>・(C)への支援 友達の記述を参考にさせ、ワークシートに加筆するように指示する。</p>
	5 曲の背景と曲想がどのように関わっているか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのキーワード「華やかさ」「対比」が、音楽のどこでどのように表現されているか、音色、旋律、テクスチュア、形式を基に考えさせる。 ・学習用PCで曲を聴きながら話し合うように指示する。 ・新しい考えに出会ったら、赤で加筆させる。 ・各班の発表を板書して整理する。 ・音楽のどこでそのように感じたか根拠を基に発表させる。 	
	<p>(1) 曲の背景と曲想の関わりについてグループで話し合う。</p> <p>(2) 話し合ったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「春」の気に入ったところとその理由を書かせる。理由は、音色、旋律、テクスチュア、形式等の中から言葉をいくつか用いて書くように指示する。 	
まとめ	7 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、ヴィヴァルディ作曲「四季」の他の曲を聴いて学習を深め、紹介文を書くことを伝える。 	

《引用文献》

(1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 平成20年9月 p. 7

《参考文献・参考資料》

- ・国立教育政策研究所 『特定の課題に関する調査(音楽)調査結果』 平成22年7月
- ・国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校音楽】』 平成23年11月